

「何も思い煩わず。」 ピリピ 4 章 4～14 節

クリスマスパーティーはすごく楽しく面白かったですね。

私には、幾つかのグループが音程を取るためとリズムを取るために流す音源と歌う音程が最初から合っておらず、打ち終わった後に1小節遅れて音源が終わったことが、本当に可笑しかった。失礼ながら、音痴の人は、音がずれていることに気が付かないのです。音痴の人は15%おり、男性が多いそうです。原因としては、小さい時から音楽に触れておらず、指導も受けていないからで、先天的要因の人は4%くらいだそうです。リズム感も同様なようです。

私自身は、まったく音楽とは相容れない家庭に育ったので、音痴でリズム感が悪いのを自覚し、中学入学と同時にプラスバンドに入りました。音楽は他の人と一緒に演奏することが大事で、当初は毎日数時間、その後は短時間で7、8年やって、音程が取れるようになり、リズムも身に付けました。私の場合、何でも、後天的に身に付けたことが多く、かなり真剣に時間を掛けて一つずつ習熟してきました。元が何もなかったもので、できないのは当たり前だと思い、努力を積み重ねてきました。他も同様です。

ここで大事なことは習熟するためには、多くの時間と労力、そして知恵を尽くさなければならぬということです。天才や秀才、或いは何らかのことに秀でるためには、異常なほどの努力と集中が必要です。日本の社会や教育は、人に迷惑を掛けるなどか、全てにおいて秀でることを求めています。実は、それは軍国主義の中で忠実な労働者を生み出すために練られた政策です。ともかく一生懸命働いて、社会や会社にくす人生を過ごして来たら、趣味や芸術、そして教養や信仰も真摯には持ちえません。

私の娘は、就職して独創的な働きをして数年で責任ある役職になり、海外支店の支店長や役員を約束されたけれども、部下に自分と同じような働き方を強いることはできないと辞職して、3年もの海外旅行をし、現在外資で働き、クリスマス長期休暇を取っています。息子も、働きバチのような仕事をしたくないと独立して、思い通りの仕事をしていきます。私自身、仕事に縛られるような生活はしていません。

「何も思い煩わないで」(5)とは、失敗を恐れず、周囲の人を気にせず、神の守りを信じて自由に生きることです。今年、ショックを受けたことは、人の世話にならずに長生きしようと一生懸命努力した義姉が突然死んでしまったことです。他方、気楽に生きて、いつも義姉から怒られていた兄は、若い看護師さんたちの世話になって、介護施設で快適に

思い煩わず、自分の意志に基づいて働ける人は少ないようです。日本では、善良な人たちは、仕事優先かつ競争社会に生き抜くことは難しいのです。音痴な人たちを見て、善良な人たちであり、だからこそ信仰に至ったのだと感じました。音程が取れないなどということはとても良いのです。楽しい歌でした。

現在の教会員に排他的な人や独善的な人はいません。ただ、良い人、優秀な人になろうと「思い煩う」傾向があるようです。それは奴隷になるような洗脳です。クリスチャンは、良い人ではなく、神を信頼して、神が守ってくださることを信じて暮らす人です。

終末の様相を呈する社会にあつて、クリスチャンとして如何に生きるべきかを模索しています。人々の不安は、経済的、健康的、社会的に守られるかどうかです。実際は、仕事はAIに取られ、働く職種は限られ、貧富の差は激しくなり、豊かな経済生活は難しくなっていくでしょう。日々の生活に追われ、教会に通う人も少なくなり、社会は荒れてくるでしょう。

この教会は、過激なことはせず、平凡な信仰生活を営む人を守っていきたくて考えています。教会員が互いに愛し合い、助け合い、守りあつて生きる、それで十分です。喜んで過ごしましょう。そして、「世の光、地の塩」(マタイ5:13:14)として生きましょう。

「貧しくあることも知っており、富むことも知っています。満ち足りることに飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に対処」(12)して信仰を守るのです。「思い煩う」と信仰を失い、生活も破綻するでしょう。

「私を強くしてくださる方によつて、私はどんなことでもできるのです。」(13)とは、積極的に生きることではなく、「苦難を分け合」うことになってきます。仕事に熱心すぎると、罪の奴隷になっていきます。今や、熱心に働いても業績を上げることが、豊かになることもできない時代になりつつあります。

「あなたがたの寛容な心が、すべての人に知られるようにしなさい。主は近いのです。」(9)。競争ではなく、喜び平安に過ごすことを求める人々が集う教会になつていきたくて考えております。

1. 信仰に生きるキリストの弟子の養成

主の弟子は状況に左右されず聖霊に聞き従い、神を信じ人を信じて人々の救いと解放をもたらす。十字架に死んで神と共に生きるとは、自分と人々の罪からくる咎を覚悟し信仰と希望と愛とを持って福音の祝福の中に生きることである。キリストの弟子の養成こそ教会の使命である。

2. 真理と祈りと讃美に満ちた信仰生活の指導

聖書の教え、真理は人を自由にする。祈りは問題や悩みを解決し、神の御心を確認する。讃美は癒しと喜びと力を与える。教会はそれらを教え指導し、互いの交わりの中で模範を造り出していく。

3. キリストを頭として愛によって結び合わされた共同体の形成

教会には多種多様な人々が神によってこの世から召し出されてくる。この信者を整え、神への奉仕という使命を果たすように導くには、キリストの弟子として十字架を負い主に従う指導者層が確立されなければならない。整えられ愛し合い一致した教会こそ神の栄光が現され成長する。

4. 隣人に対する愛に基づいた執り成しと伝道の実践

神を愛する人は人をも愛し、行いを伴う信仰を持つ。真理を知らず罪と咎によって苦しんでいる人々を愛し、執り成し、福音を伝えることによってこそクリスチャンは成長し、祝福される。

5. 地域と社会に貢献する魅力的な教会員の歩みと家族形成

教会と教会員の活動・事業・啓発運動を展開し、社会に影響を与えながら、同時に愛し合う家族を形成し、接する人々に福音を現していくことが、日本のリバイバルに必要であると私たちは信じる。

今週の聖書

ピリピ 4:4 いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。

4:5 あなたがたの寛容な心が、すべての人に知られるようにしなさい。主は近いのです。

4:6 何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。

4:7 そうすれば、すべての理解を超えた神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。

4:8 最後に、兄弟たち。すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて評判の良いことに、また、何か徳とされることや称賛に値することがあれば、そのようなことに心を留めなさい。

4:9 あなたがたが私から学んだこと、受けたこと、聞いたこと、見たことを行いなさい。そうすれば、平和の神があなたがたとともにいてくださいます。

4:10 私を案じてくれるあなたがたの心が、今ついによみがえってきたことを、私は主にあって大いに喜んでます。あなたがたは案じてくれていたのですが、それを示す機会がなかったのです。

4:11 乏しいからこう言うのではありません。私は、どんな境遇にあっても満足することを学びました。

4:12 私は、貧しくあることも知っており、富むことも知っています。満ち足りることに飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。

4:13 私を強くくださる方によって、私はどんなことでもできるのです。

4:14 それにしても、あなたがたは、よく私と苦難を分け合ってくれました。

Phi 4:4 Rejoice in the Lord always. Again I will say, rejoice! 4:5 Let your gentleness be known to all men. The Lord is at hand. 4:6 Be anxious for nothing, but in everything by prayer and supplication, with thanksgiving, let your requests be made known to God; 4:7 and the peace of God, which surpasses all understanding, will guard your hearts and minds through Christ Jesus. 4:8 Finally, brethren, whatever things are true, whatever things are noble, whatever things are just, whatever things are pure, whatever things are lovely, whatever things are of good report, if there is any virtue and if there is anything praiseworthy—meditate on these things. 4:9 The things which you learned and received and heard and saw in me, these do, and the God of peace will be with you. 4:10 But I rejoiced in the Lord greatly that now at last your care for me has flourished again; though you surely did care, but you lacked opportunity. 4:11 Not that I speak in regard to need, for I have learned in whatever state I am, to be content:

4:12 I know how to be abased, and I know how to abound. Everywhere and in all things I have learned both to be full and to be hungry, both to abound and to suffer need. 4:13 I can do all things through Christ who strengthens me. 4:14 Nevertheless you have done well that you shared in my distress.